

わとく地域支援センターだより

2学期は運動会を控えている学校が多いと思います。今月は運動会に向けてクラスをつなげる方法の提案と、タイプ別教師の特徴、7つのタイプ別“支援が必要な子どもの輝かせ方”について紹介します。

イベントを利用してクラスをつなげる

人は共通の目標に向けて努力していくことで仲間としてのつながりを深めることができます。せっかくそこにある壁をクラスの成長に使わない手はありません。例えば運動会であれば、

- ①必勝法に関する情報収集や練習の仕方の相談を話し合いで考えさせる
- ②進捗状況の管理やビデオ撮影による客観的な評価を行う
- ③リーダーからの語りかけの場を作る等

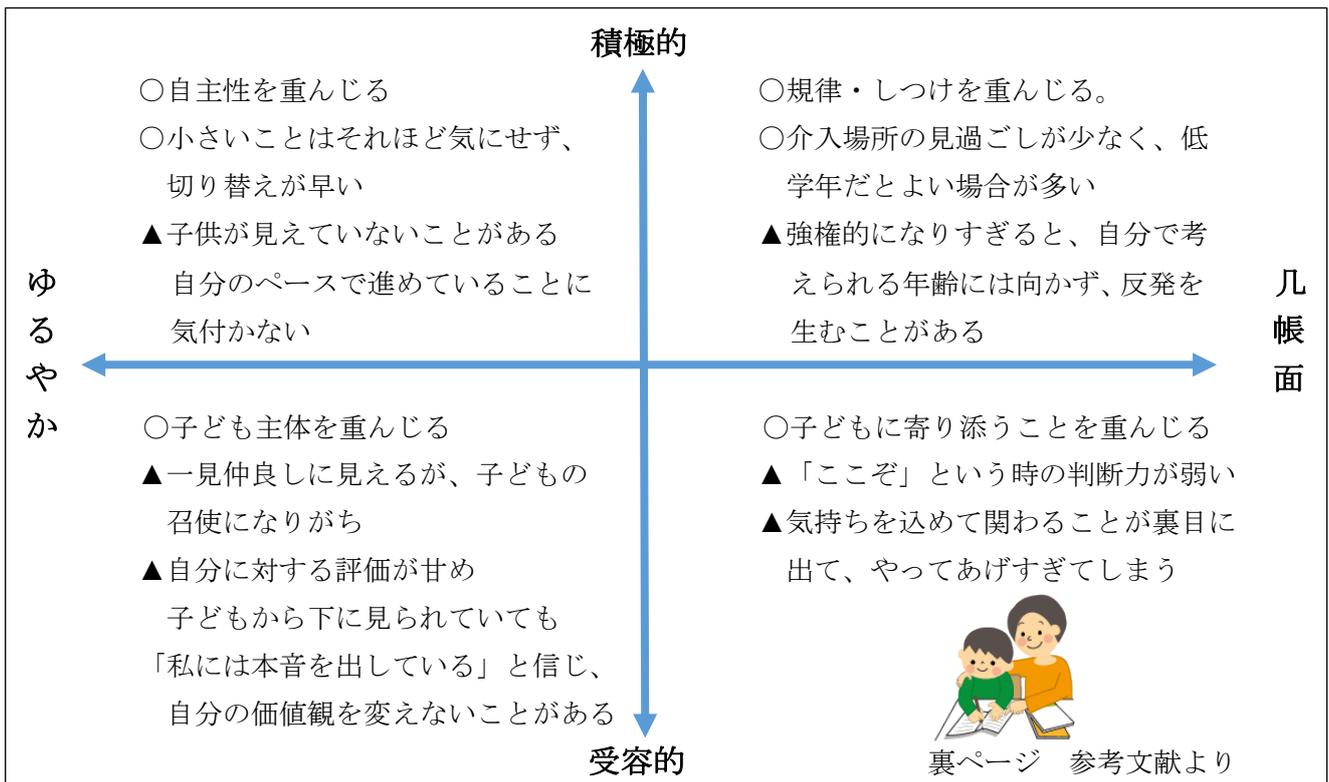
その時の担任のチェックポイントは3つ。

- ①ゴールがシンプルに見えるか
- ②ゴールに向かう手立てを具体的に持っているか
- ③少しだけハードルが高いか



できる限り子どもたちが主体的に取り組めるように支援することが担任の役割です。暑い時期での運動会練習で子どもたちもイライラしがちです。効率よく目標に到達させるためにも、子どもたちに考えさせて決めさせることができれば、クラスが一致団結。きっと思い出に残る運動会になるでしょう。

タイプ別 教師の特徴



7つのタイプ別 “支援が必要な子どもの輝かせ方”

(1) キレやすい子

キレやすい子はそもそも行動を禁止・制御すること自体が苦手です。また、感情を言語化することが苦手です。特に、悔しい、もどかしい、情けないといった感情言語を整理できていない場合が多く、「あの子ズルい」「あいつムカつく」「あの子が〇〇したせいだ」と外向きに気持ちの整理をする癖がついています。人のせいにするのではなく、「悔しかった」などの自分の感情を表現する指導を丁寧に行うことが大切です。

(2) 授業中の他児妨害がみられる子

授業中にふざけてしまう子どもがクラスにいますと、どうしても注意してしまうことが多くなります。叱る前に、その子に学習のつまずきがないか確認します。もし、読み書きの困難さや学力の低さが背景にあるのだとすれば、授業妨害を叱っても根本的な解決にはなりません。したがって注意するよりも前に学習支援を行う必要があります。



(3) 姿勢が崩れやすい子

姿勢を保つだけの身体感覚が十分に育っていないケースがあります。「意欲に欠ける」「態度が悪い」といった誤解を受けることが多いので注意が必要です。治そうとするよりも、姿勢が良いときに「姿勢が良いよ」と声をかける方が教師の意図が伝わります。わかったら全員立ち、隣の友達と話し合い、終わったら座る…といった姿勢転換の場면을授業中に設定するのもよい方法です。机や椅子の高さを調整する事も大切です。

(4) 何度叱っても同じことをする子

同じ間違いを繰り返す子どもの多くに共通してみられるのはワーキングメモリーのつまずきです。「〇〇しようね」と言われたその時は分かるのですが、少し時間がたつとすぐに忘れてしまいます。長い説明、たくさんの方の言語指示は好ましくありません。守るべきルールを限定し、指示内容を複雑にしない。叱るのではなく、行動を一度止めて「伝え方が悪かったから、もう一度言うよ」と確認しなおします。

(5) 行動が遅い子

どうしても出足が遅い子がいます。そんな時は自分から動きたくなるような環境作りを進めます。例えば、クラス全体で「時間貯金」に取り組むというのはどうでしょうか。「今から5分で片づけをします」と指示し、「5分よりも早く片づけができたならその時間は貯金します」と続けます。コツコツ貯金した時間が1時間分貯められたところでお楽しみ会を開くなど。いずれにしても楽しみながら取り組めることが鍵です。

(6) 人が傷つくことを平気で言う子

相手の端緒や家庭の事情など、人が言われて傷つく言葉をズバズバいう子の場合、相手の気持ちに立つ事が難しい場合があります。その場合、①今、何をしたか(言ったか) ②何を期待して行動したか ③それなら、こうするべき(言う)べきだ のように三段構えで望ましい行動を伝えていくと良いと思います。他にもソーシャルスキルをイラストにして伝える方法もあります。



(7) お試し行動が激しい子

教師をからかったり、注意を引くような行動を繰り返したり…。教師の動揺を誘うような行動を「お試し行動」と呼びます。「なんで〇〇しなきゃいけないんですか？」などもこれに該当します。教師の心を揺さぶる気持ちと、「ここまでやっても先生は見捨てないよね」という愛情確認の気持ちが込められているので完全に遮断すると信頼関係が築けなくなります。少しは揺さぶりに乗って上げ、それでも教師としての譲れない一線を崩さないという方針を貫くようにします。

*参考文献 “授業のユニバーサルデザインを目指す 「安心」「刺激」でつくる学級経営マニュアル
～すべての子どもを支える教師の1日～” 東洋館出版社



兵庫県立和田山特別支援学校 支援部 兵庫県朝来市和田山町竹田1987-1

TEL 079-674-0214 (センターお願いしますとお申し出ください 担当: 柳本・武田まで)

